

# 第22回 化粧品包装セミナー

## —化粧品包装・パッケージの品質設計を考える—

日程：平成28年11月11日(金) 10:00 ~ 16:50

会場：ソラシティカンファレンスセンター RoomC

主催：公益社団法人日本包装技術協会

### ご参加のお勧め

第22回目を迎える今回は『化粧品包装・パッケージの品質設計を考える』と銘打って開催します。新製品開発にあたっては、内容物の保護、機能面(使いやすさ)での工夫はもちろん、内容物に最適なパートナーとなるよう配慮しなければなりません。そのような構造・素材を考え、より良いパッケージ開発目指し品質設計が行われています。今回は素材面から、紙素材の基本から最新技術までのご紹介、化粧品アイテム別の品質設計のポイント等、化粧品品質設計を再考していただく場になれば幸いと考えています。

また、プログラム最後には講師の方々と企画委員とでの質問コーナーも開催する予定です。

どうぞ本セミナーに数多くの方々のご参加をお待ちしております。

企画委員一同

### プログラム

時間	講演内容	講師
10:00 ▼ 11:10	<b>【化粧品の品質設計について】</b> 化粧品の品質は、新製品設計段階で中味と容器の相性などを中心にいかに精度の良い検証が出来るかにかかっています。最近の化粧品は、中味の高機能化や性状の多様化に伴い容器形態も増え、構造も複雑化しているためにより緻密な確認検証が必要になっています。常に容器は、中味の保護・使いやすさ・デザイン等で競合他社より優れたものが求められます。商品は工場から出荷され輸送、保管、陳列、販売での振動・落下・温度・圧力・光などに耐え、使用終了までの長期にわたり安心、安全、安定していることが求められています。本講演では、容器素材の選定・温度保証・中味漏れ・容量決定・吸着透過・振動落下保証など、設計段階で留意すべき基本的な考え方について解説します。	株式会社トキワ グローバルテクノロジーセンター 主席研究員 <b>井上 隆 氏</b>
11:20 ▼ 11:50	<b>【紙の基礎知識と化粧品パッケージ用途の紙について】</b> 次の4項目について説明します。 ①紙の種類を洋紙と板紙に大別してその製造方法について ②紙の原材料を針葉樹、広葉樹、非木材別に分け、その特性について ③FSC認証紙及び環境対応紙について ④化粧品パッケージに使用される用紙の特性について	五條製紙株式会社 執行役員 営業部長 <b>神野 繁樹 氏</b>
11:50 ▼ 12:25	<b>展示物内覧会</b>	
13:25 ▼ 13:55	<b>【化粧品と医薬品の個装箱における改ざん防止の開発品事例】</b> 個包装の設計を行う上で、商品の保護性・販売促進・生産性・コストなどを考慮した包装設計が求められています。化粧品包装では、美観性・利便性も重要ですが店頭販売での商品の個包装においては、「改ざん防止」も、重要な機能の一つと言えます。今回の講演では、医薬品個包装においてはどのような設計やコンストラクションが採用されているのか事例を交え解説致します。また、パッケージだけでなく、ラベルも含めた朝日印刷のオリジナル様式について当日は、実際のサンプル品を展示致しましてご紹介致します。	朝日印刷株式会社 製品企画部 コンスト課 課長 <b>高松 一志 氏</b>
14:00 ▼ 14:30	<b>【化粧品・トイレットリー向けフィルム包装の最新技術動向】</b> 近年では、省資源化・減容化といった環境負荷低減や軽量化、コスト削減の観点から容器包装におけるフィルム化が進んでいます。フィルム包装に求められる要求品質としては、主に内容物の保存期間や保香性、耐内容物性、使いやすさが挙げられます。化粧品・トイレットリー市場においては、ボトル容器からの代替として詰替えパウチが増えていますが、一方でバリア不足による内容物の劣化や容器へのアタックが強く金属やプラスチック容器でしか保存できない内容物も多く、フィルム化が進んでいない分野も見られます。本講演では、これらの技術課題解決のためのバリア材料やコンバーティング技術のご紹介をいたします。	凸版印刷株式会社 生活・産業事業本部 ビジネスイノベーションセンター 開発本部 第一開発部 包材開発2チーム 係長 <b>大塚 浩之 氏</b>
14:40 ▼ 15:25	<b>【化粧品容器用途でのエチレン系アイオノマーの活用について】</b> エチレン系アイオノマーは、エチレンとメタクリル酸の共重合体を金属イオンで架橋した非常にユニークな樹脂です。その特殊な構造から、一般的なエチレン系樹脂に無い、「ガラスのように透明で、強靱性に優れた熱可塑性樹脂」とのキャッチコピーに代表される、優れた透明性、耐衝撃性、耐擦傷性、そして耐溶剤性を有しています。その特徴を生かし、ガラスの代替材料として、香水キャップに幅広く使用され、エチレン系アイオノマーの代表的な用途として幅広く知られています。今回の講演では、ガラスのような審美性が求められる化粧品容器でエチレン系アイオノマーの特徴を更に活かすべく、三井・デュボン ポリケミカル株式会社が開発した「3D-オーバーモールドング技術」および、その技術を用いて作製した容器を中心にエチレン系アイオノマーを使用した活用例について、ご紹介いたします。「3D-オーバーモールドング技術」とは、従来の成型技術では不可能だった中空の容器の上に外装樹脂でオーバーモールドして成型する技術で、この技術を使って成型を行うとDesign Freedom(デザインの制約からの解放)、Decoration Possibilities(類を見ないデザインの可能性)、Depth Effect(ガラス同様の重厚感)といった3つの効果が得られます。	三井・デュボン ポリケミカル株式会社 テクニカルセンター モールド・コンパウンドグループ グループリーダー <b>伊藤 俊宏 氏</b>
15:35 ▼ 16:50	<b>【質問タイム】 回答者：講演者・セミナー企画委員</b> 化粧品パッケージについて事前に参加者の皆様に質問用紙を配布し質問を受け付けます。上記講演に関する質問と併せて、講演者と本セミナー企画委員にそれぞれの立場でお応え頂きます。	

### 化粧品包装セミナー企画委員

\*本催しは各企業から代表された企画委員によりプログラムを編成しております

- 主査 住瀬 雅広 氏 株式会社DSC 代表取締役社長  
 木本 喜久 氏 株式会社資生堂 化粧品開発センター 外装開発グループ 副主幹研究員  
 直井 正宏 氏 株式会社コーセー 商品デザイン部 設計課 主任専門職  
 鈴木 智晴 氏 株式会社ポーラ デザイン研究室  
 岡 政弘 氏 花王株式会社 包装容器開発研究所 グループリーダー



# 講師のご紹介

## 井上 隆氏

株式会社トキワ  
グローバルテクノロジーセンター  
主席研究員

### 【ご略歴】

1971年 ㈱資生堂 鎌倉工場入社  
1975年 同社 技術部 外装技術・品質保証  
1999年 ㈱資生堂本社 購買部(材料購買)  
2002年 生産技術開発センター  
2005年 宣伝制作部(パッケージジブドゥース)  
2009年 ㈱資生堂退社  
2010年 ㈱トキワ入社  
グローバルテクノロジーセンター 新規外装設計及び開発を担当

## 神野 繁樹氏

五條製紙株式会社  
執行役員 営業部長

### 【ご略歴】

2000年9月 ジー・ピー・エス㈱ 営業部 部長  
2010年4月 ジー・ピー・エス㈱ 執行役員 営業部長  
2015年12月 五條製紙㈱ 執行役員 営業担当

## 高松 一志氏

朝日印刷株式会社  
朝日印刷株式会社  
製品企画部 コンスト課 課長

### 【ご略歴】

1988年 朝日印刷㈱入社  
医薬品、化粧品のパッケージ開発・コンストラクション設計に携わる  
包装管理士・包装専士・日本パッケージデザイン協会会員

## 大塚 浩之氏

凸版印刷株式会社  
生活・産業事業本部 ビジネスイノベーションセンター  
開発本部 第一開発部 包材開発2チーム 係長

### 【ご略歴】

2003年 凸版印刷㈱ 入社 パッケージ事業本部 研究開発本部  
2013年 同社 生活・産業事業本部 生活・産業製造事業部 技術本部  
2016年 同社 生活・産業事業本部 ビジネスイノベーションセンター 開発本部 所属  
トイレットリー分野における包装材料の開発に従事  
包装専士

## 伊藤 俊宏氏

三井・デュボン ポリケミカル株式会社  
テクニカルセンター  
モールド・コンパウンドグループ  
グループリーダー

### 【ご略歴】

1993年 三井石油化学㈱(現 三井化学㈱)に入社  
高分子分析に関する業務に従事  
1998年 三井・デュボンポリケミカル㈱に所属  
高分子の分析に関する業務に従事後、現在の工業材料用途の技術サービス及び開発に関する業務に至る

著書:高分子分析ハンドブック共著(アイオノマーに関して)



## 講演要領

日時:平成28年11月11日(金) 10:00 ~ 16:50

会場:[ソラシティカンファレンスセンター Room C]

東京都千代田区神田駿河台4-6 御茶ノ水ソラシティ

参加費:会員18,360円(消費税・テキスト代含む)

\*同時に3名以上でお申込みの場合には、

割引価格として1名15,120円(消費税・テキスト代含む)

一般27,000円(消費税・テキスト代含む)

定員:100名



## お申込み方法

■本紙申込書に必要事項を全てご記入の上、FAXにてお申込み下さい。

協会ホームページからお申込みできます。

\*協会ホームページ: <http://www.jpi.or.jp>にてホームページを検索し、各種・催事から「第22回化粧品包装セミナー」を開いて下さい。ページ末の申込みフォームに必要事項をご記入して送信下さい。

■申込みされた方には、後日参加証と請求書をお送りします。

■開催日3日前からのキャンセルでの参加料の払い戻しは出来ませんのでご了承下さい。

■当日、ご都合が悪くなった場合、代理の方の出席は差し支えありません。(受付にて名刺をご提出いただけます)



## お問合せ並びに申込み先

公益社団法人日本包装技術協会 化粧品包装セミナー係 担当:竹内

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F

TEL.03-3543-1189 FAX.03-3543-8970 e-mail:takeuchi@jpi.or.jp

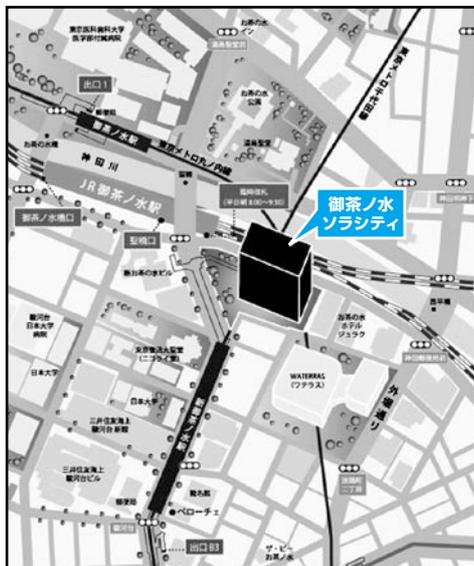
### 【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「第22回化粧品包装セミナー」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、個人情報を第三者に開示・提供することはありません。

## 会場案内図

■会場:ソラシティカンファレンスセンター Room C  
東京都千代田区神田駿河台4-6 御茶ノ水ソラシティ

■アクセス:JR中央線・総武線「御茶ノ水」駅 聖橋口から徒歩1分  
東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅 B2出口[直結]  
東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水」駅 出口1から徒歩4分  
都営地下鉄新宿線「小川町」駅 B3出口から徒歩6分



## 第22回化粧品包装セミナー(11月11日開催)参加申込書

公益社団法人日本包装技術協会 化粧品包装セミナー係 担当:竹内 FAX.03(3543)8970 No

会社名	JPI会員 ・ 一般 (どちらかに○を付けて下さい)				
所在地	(〒 )				
電話			FAX		
参加者名	所属役職		e-mail		
	所属役職		e-mail		
	所属役職		e-mail		